

# 火のある暮らしのはじめ方

～ 交流会 (H21・1・24) ～

## 森のめぐみ・田のめぐみ 火を囲むぬくもりの宴



▲昔懐かしい火鉢



公園緑化協会で販売中の  
薪ストーブの温かさは格別▲



▲知っている人も知らない人も  
あつという間に打ちとけてゆく

火のあるところに人は集い、話らい、笑い、知らぬ間に和みます。そんな人の温もりを感じ合える、泉佐野市公園緑化協会主催の「火のある暮らしのはじめ方」交流会に参加してきました。会場は末広公園内の協会事務所。参加者はさまざまな地域と分野で活躍する異業種の男女約50人。

みなさん、泉州の文化や郷土を愛し、元気にしようという熱い心を持つ人ばかり。宴の中心には大きな火鉢が置かれ、たらいほどもある大鍋には、鴨すきと猪鍋がグツグツ…。協会では管理する公園などで剪定した樹木や森林整備の間伐材を上ノ郷のコースモ山の炭焼窯で良質の炭に加工したり、薪ストーブを販売するなど環境に配慮した市民参加型の独自の活動を行っています。今回の交流会はそんな循環型自然エネルギーの薪や炭の良さを知ってもらい、地域のつな



▲大鍋の前で…

がりを作ることが目的とか。また、鴨すきになったお肉は昨年、合鴨水稲同時作で育てた鴨を、職員やボランティアの人々の手でさばいたもの。その作業を見学すると、私たちが普段食べている食材はすべて尊い動物や植物の命をいただいて生きていくのだと実感。

歌あり、踊りあり、差し入れのお酒あり…と、手作りの火を囲む宴は夜遅くまで語らう会となりました。



▲合鴨水稲同時作で育てた鴨を丁寧にさばいて、いただきました。